

■ガイドラインでの天井廻りの点検頻度の考え方

1) 天井廻り点検(1回目)

全国調査での不具合状況を踏まえ、外観点検と全ての点検口から天井内点検を実施

2-1) 定期的な点検(不具合なし、不具合改善)

- ①外観点検は1年に1回実施する。
- ②天井内点検は、改修工事や設備点検等に併せて適宜実施する。

2-2) 定期的な点検(不具合箇所)

- ①不具合箇所はできるだけ早期に改善工事を実施するが、工事実施までの間は少なくとも1年に1回の頻度で、不具合箇所を点検口から点検する。
- ②漏水による不具合箇所は少なくとも1年に1回の頻度で、天井内点検を継続的に実施する。

天井の定期的な点検の頻度について、他事例との比較

	天井内点検	外観点検
安心避難対策ガイドライン (案)	<ul style="list-style-type: none"> ・天井内点検は、<u>改修工事や設備点検等に併せて適宜実施する。</u> ・漏水による不具合箇所は継続的に天井内点検を少なくとも<u>1年に1回実施する。</u> ・不具合箇所は工事実施まで少なくとも1年に1回の点検を行い、できるだけ早期に改善する。 	<u>1年に1回実施する。</u>
①鉄道駅事例	<u>主要な点検口のみ2年に1回実施</u> 駅範囲の主要箇所の天井点検口より天井内の天井下地・吊りボルト・設備配管等の点検を行う。	<u>1年に1回実施</u> 目視による仕上げ材、点検口の取付状態の確認
②地下街事例	<u>主要な点検口のみ1年に2回実施(6月、10月＝台風シーズンに)</u> 天井内の漏水状況を確認している。ただし、全ての点検口ではない。以前、漏水があったところの状況確認が中心。	<u>月に1回の防災点検で実施</u> 点検項目の中に「外装の異常、異変がないか」